

1. 構造探査に基づく震源断層システムの解明

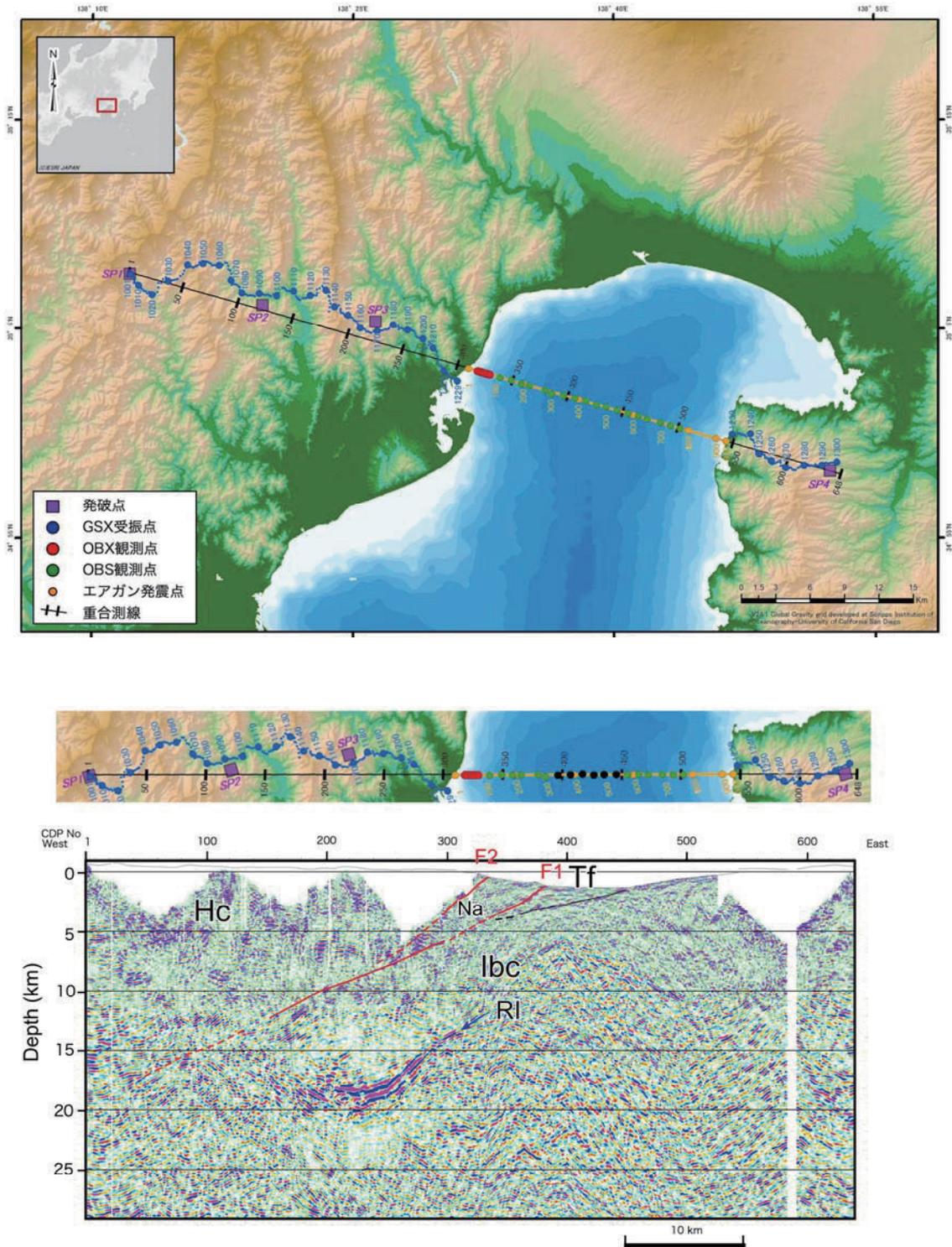


図 相模湾横断地殻構造探査 (上) 測線図 (下) 反射法地震探査深度変換断面とその地学的解釈。赤線:活断層-震源断層。Tf: トラフ充填堆積物、Ibc: 伊豆-小笠原弧の背弧地殻、RI: 伊豆-小笠原弧の顕著な地殻内反射面、Na: 新生代後期付加体、Hc: 本州側の地殻。

1. 構造探査に基づく震源断層システムの解明

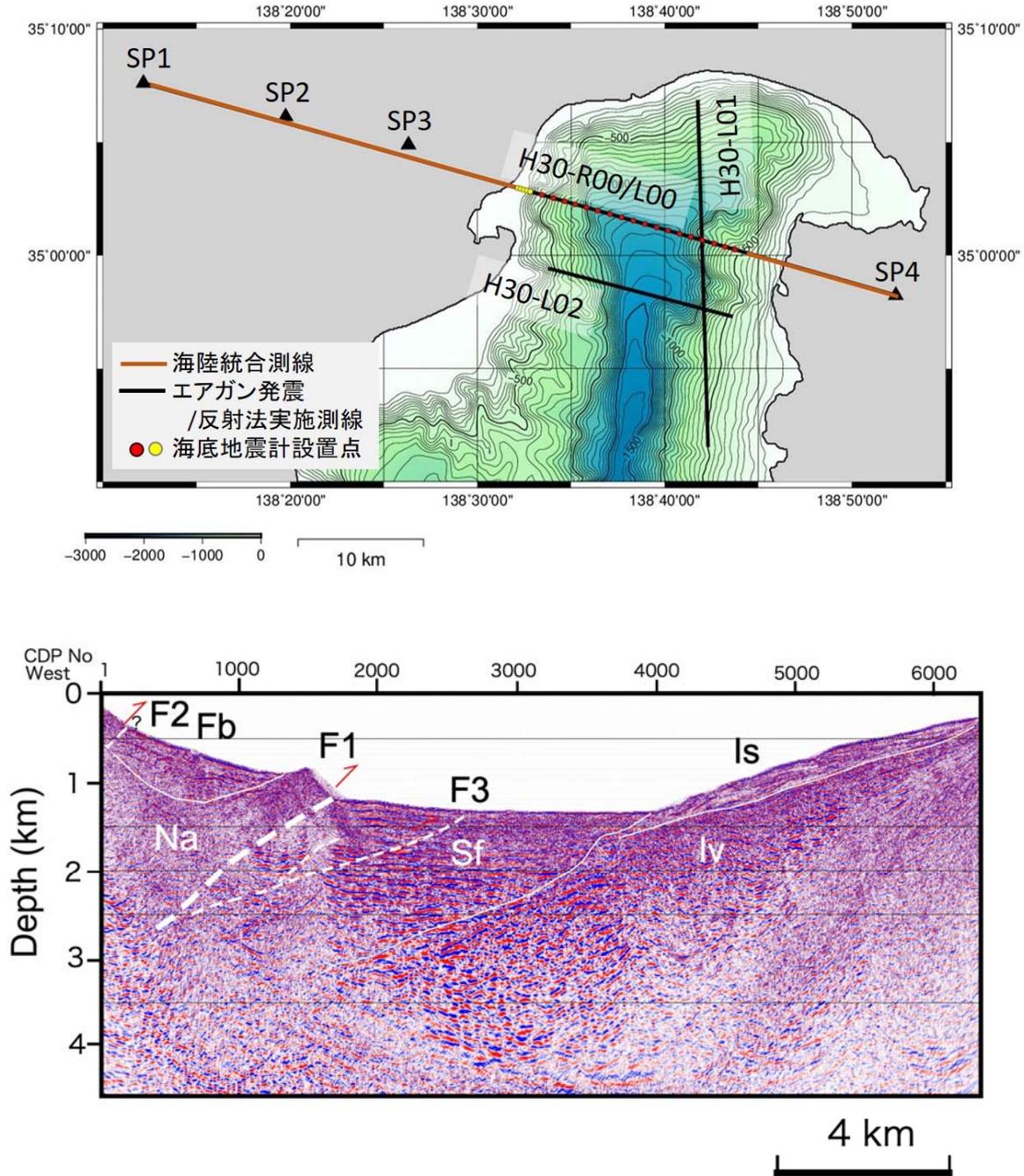


図 駿河湾北部海域におけるエアガン発震測線（上）およびマルチチャンネル反射法地震探査深度変換断面の地質学的な解釈（下）。伊豆弧の火山岩・火山碎屑岩(Iv)、伊豆弧背弧海盆堆積物(Is)、駿河トラフ充填堆積物(Sf)、西南日本弧の新生代付加体堆積層(Na)、前弧海盆堆積物(Fb)である。なお測線配置図は、岸本(2000)による地形データを用い、GMT(The Generic Mapping Tool)によって作成した。

2. 活断層システムの分布・形状と活動性

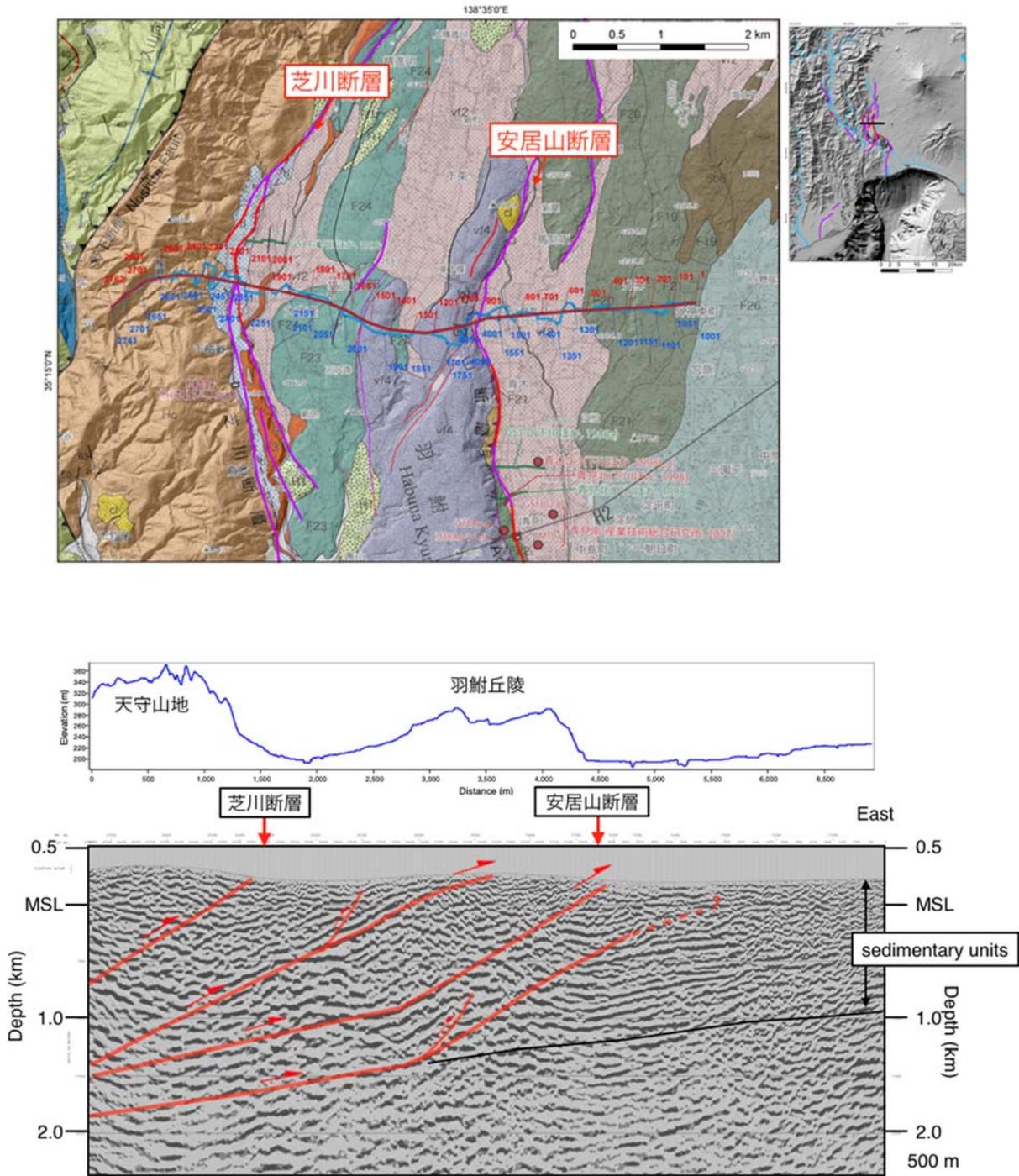


図 反射法地震探査・外神-上柚野測線の測線図（上）と深度断面の解釈図（下）。背景は尾崎ほか（2016）の地質図および1mグリッドDTMによる陰影起伏図、赤線は活断層の位置（中田・今泉編, 2002）を示す。

3. 地震活動から見たプレート構造

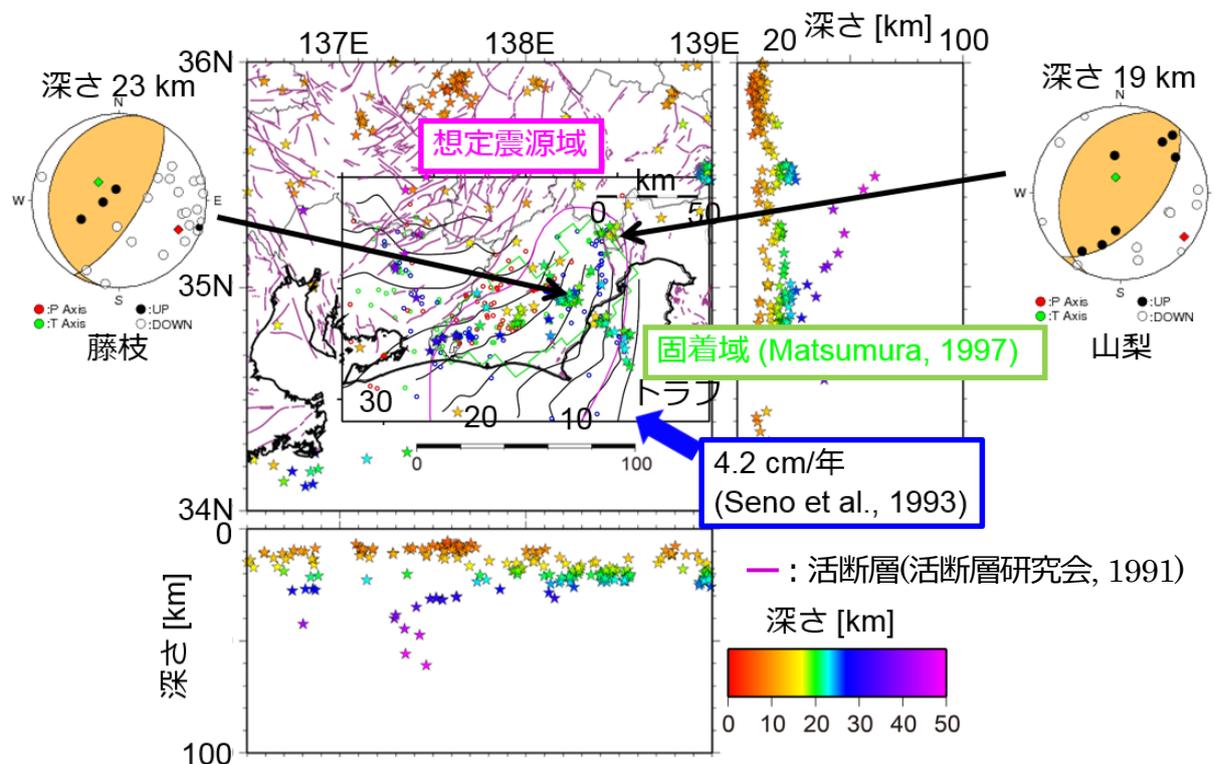


図 1 小繰り返し地震の分布と東海地震の想定震源域との比較。桃色は東海地震の想定震源域、緑色は Matsumura (1997) による東海地震の固着域を示す。黒線の等深度線は Matsubara et al. (2006) によるフィリピン海プレート上面の深さを 5km 毎に示す。

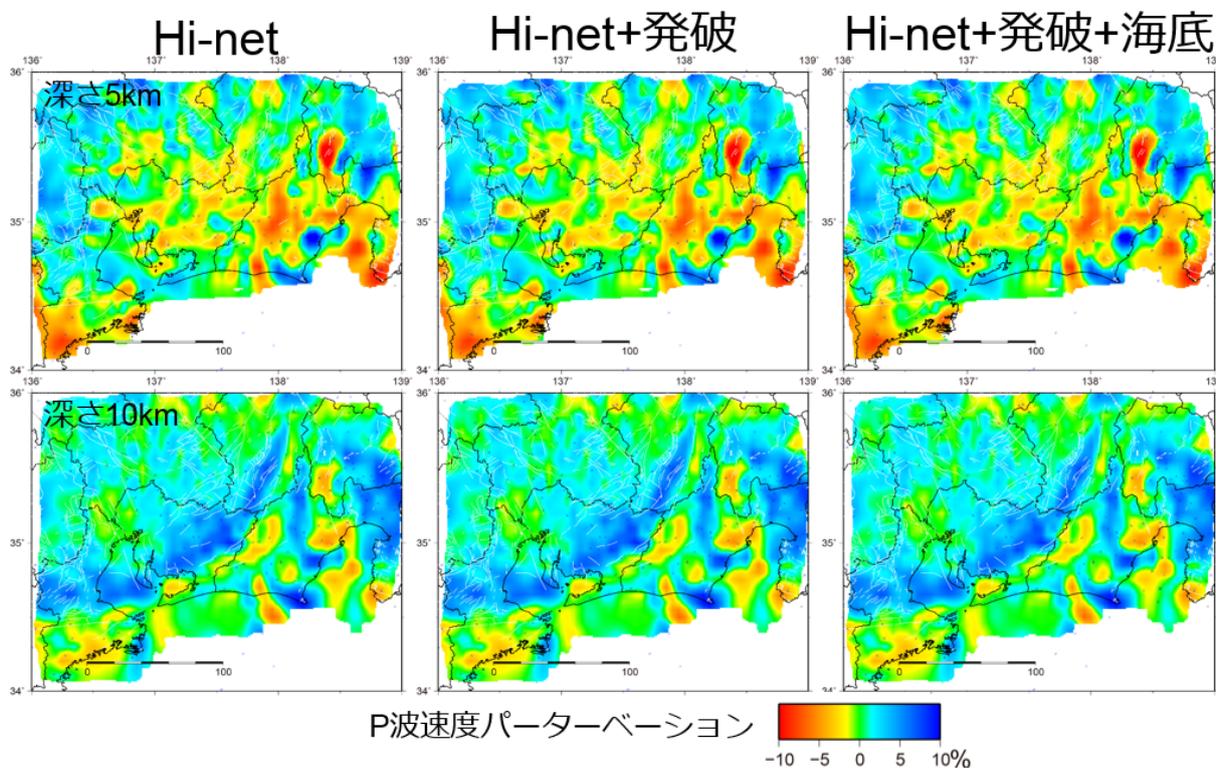


図 2 深さ 5 km、10 km における P 波速度パーターベーション。

4. 史料地震調査

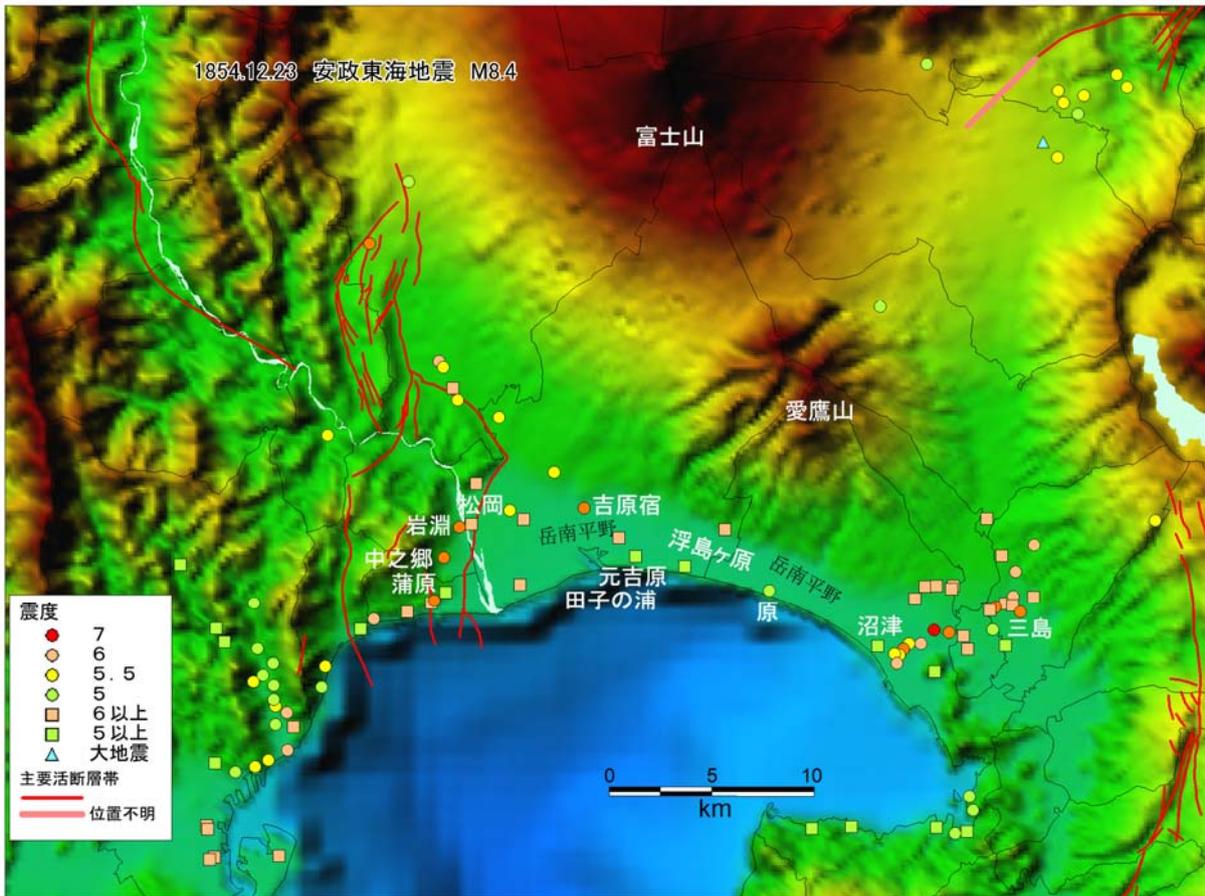


図 平成 30 年度末時点での富士川河口断層帯付近における安政東海地震の震度分布。背景図は国土地理院の数値地図から 250m メッシュで標高を 5 倍強調して作成した。活断層トレースは地震調査研究推進本部(2015)の評価活断層帯トレース。

5. 強震動予測

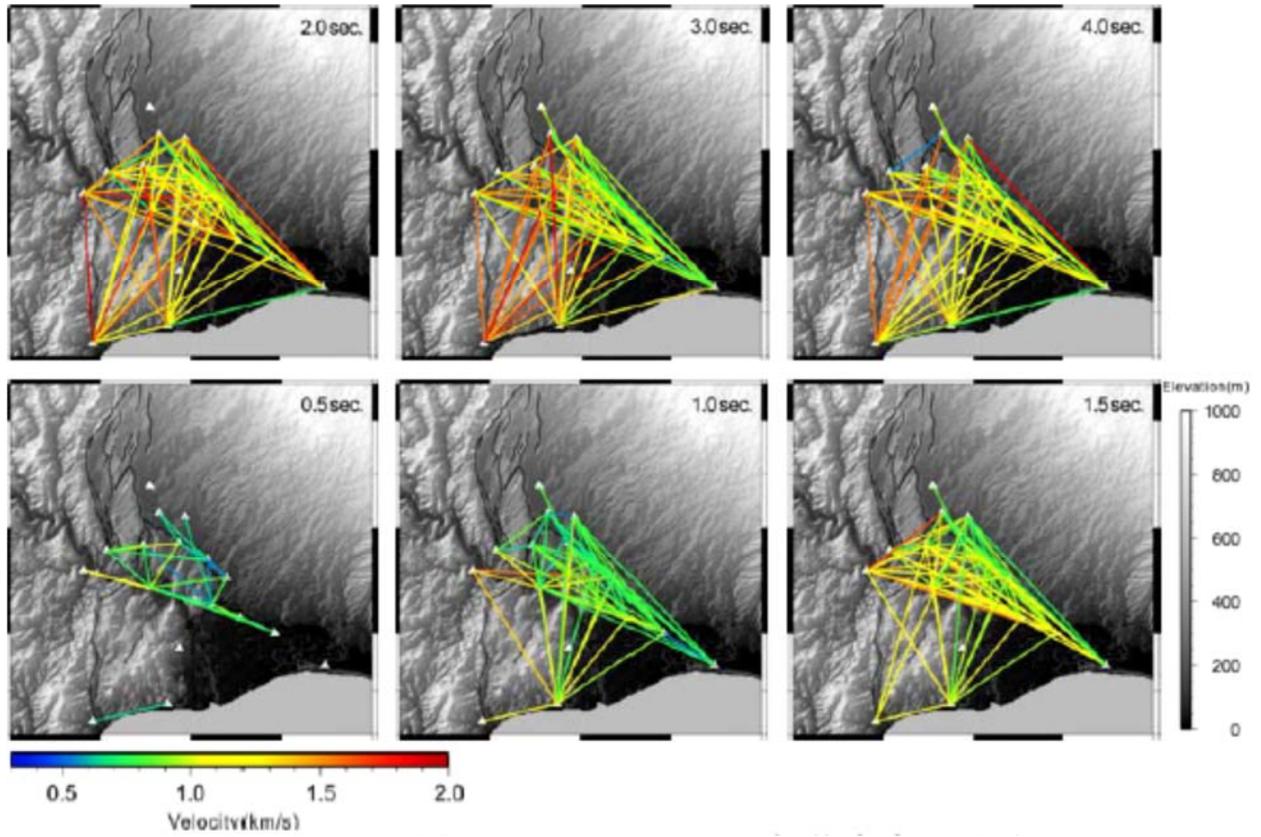


図 地震波干渉法による富士川河口断層帯周辺地域のレイリー波群速度の分布。

6. 地域研究会



図 第1回地域研究会（静岡）開催の様子。